

小学校における防災教育年間指導計画例の内容と特徴

－教育委員会等で作成された防災教育冊子の分析を通して－

河野 崇

I. はじめに

日本列島においては、平成 7 年 1 月の兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）から平成 23 年 3 月の東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の間に、平成 12 年鳥取県西部地震、平成 13 年芸予地震、平成 15 年十勝沖地震、平成 16 年新潟県中越地震、平成 19 年能登半島地震、平成 19 年新潟県中越沖地震、平成 20 年岩手・宮城内陸地震など、人的被害を伴う震度 6 弱以上の地震が 18 回発生している⁽¹⁾。

今後、「東海地震」「東南海地震・南海地震」など重大な地震災害の発生が懸念されており、日本国土の多くの地域において、今後 30 年以内に震度 6 弱以上の揺れに見舞われる確認の高いことが報告されている⁽²⁾。災害に対する備えをしていくことが求められている。

防災教育について、教育課程の領域に即して考えてみると、防災教育と関連した教科や総合的な学習の時間、特別活動の学級活動や学校行事などで取り上げられることが多いといえる⁽³⁾。

道徳教育は、安全にとって望ましい道徳的態度の形成という観点から、防災を含む安全教育の基盤としての意義をもつ⁽⁴⁾。

学習指導要領では、その総則において、安全に関する指導について規定しており、学校においては、児童生徒等の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通して適切に行われるよう、関連する教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等における教育内容の有機的な関連を図りながら行う必要があるとしている⁽⁵⁾。

防災教育に関する指導計画を作成する際には、防災教育の教育課程への位置付けを明らかにし、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等における教育内容の重点の置き方や相互の関連を工夫したり、児童生徒等の発達の段階を考慮したりすることが重要であるとして、文部科学省は、防災教育に関する指導計画の基本的な考え方や、防災教育に関する指導計画の作成に当たっての配慮事項などを示している⁽⁶⁾。

こうした動きと関連して、各教育委員会等でも、防災教育の年間指導計画例を作成しているところも出始めている。今現在の小学校で、どのような防災教育年間指導計画例が作成されているのかを明らかにすることで、小学校における防災教育の現状を把握し、授業開発、授業実践への足掛かりとしていきたい。

Ⅱ．研究の目的

各教育委員会等で作成された防災教育冊子に掲載されている、小学校防災教育年間指導計画例を収集して分析することで、今現在の小学校で、どのような防災教育年間指導計画例が作成されているのかを明らかにし、その特徴を把握する。そして、小学校において防災教育を推進するために、防災教育年間指導計画例の内容と特徴より明らかになったことを基に、授業開発、授業実践へとつなげていきたい。

Ⅲ．研究の方法

各教育委員会等で作成された防災教育冊子に掲載されている、小学校防災教育年間指導計画例を収集して分析する。収集資料として、長野県、福島県、秋田県、仙台市、文部科学省で作成されたものを取り上げる^{(7) (8) (9) (10) (11)}。

研究方法として、学期、教科等、単元名、指導内容の観点から防災教育年間指導計画例の分析をする。教科等と単元名については、防災教育と関わりのある教育活動である、生活科、総合的な学習の時間、社会科、理科、学級活動を取り上げ、各教科等における防災教育の指導内容を把握する。指導内容については、防災教育年間指導計画例の全体的な特徴を把握した後、教育活動ごとの内容について分析する。

Ⅳ．各教育委員会等作成の防災教育年間指導計画例の内容

各教育委員会等で作成された防災教育冊子を収集して分析したところ、長野県、福島県、秋田県、仙台市、文部科学省で、防災教育年間指導計画例が作成されていることが分かった。

まずは、作成された防災教育年間指導計画例の概要について見ていく。

(1) 長野県の防災教育年間指導計画例は、小学校 1 年から小学校 6 年まで、各学年で防災教育年間指導計画例が作成されている。縦軸を見てみると、安全教育の区分の中で、安全学習と安全指導に分かれている。安全学習には、国語、算数、生活科、図工、体育、社会科、理科、家庭科、総合的な学習の時間の各教科等が、安全指導には、学級活動、児童会活動、主な学校行事等が記載されている。安全指導については、主に特別活動について記載されている。

また、学期の重点を示していること、安全管理の区分の中で、対人管理、対物管理の内容を、学校安全に関する組織活動の区分の中で、研修の内容を記載している。横軸を見てみると、1 学期、2 学期、3 学期と、各学期に分けて、それぞれの学期に入る指導内容を記載している。指導内容については、白丸で単元名、黒ボチで単元名の簡単な内容を記載している。

(2) 福島県の防災教育年間指導計画例は、小学校低学年、小学校中学年、小学校高学年で作成されている。縦軸を見てみると、低学年では、学校行事等、道徳、学級活動、児童会活動、国語、生活科、図画工作、体育など、各教科等や特別活動に関する指導内容に区分されている。

また、放射線教育について書かれていることは、福島県の特徴だといえる。中学年では、算数、理科、社会科、総合的な学習の時間が加わっている。高学年では、家庭科が加わっている。指導内容については、白丸で単元名、黒ボチで単元名の簡単な内容を記載している。横軸を見ると、1 学期、2 学期、3 学期と、各学期に分けて、それぞれの学期に入る指導内容を記載している。

ただし、補足として、教科等の特性により、特に順序性を問わない場合は、学期の区切りを入れずに示すとしている。また、理科、社会科等の教科で指導学年が明確な場合や、生活科のように指導される学年が想定される場合には、(1) のようにかっこ内に数字で学年を記している。

(3) 秋田県の防災教育年間指導計画例は、全学年が一つにまとめて作成されている。防災教育で目指す児童の姿として、低学年、中学年、高学年、それぞれの目指す姿が示されている。縦軸を見ると、教科指導計画、学級指導計画、全体指導等の 3 つに区分されている。また、避難訓練実施計画を別で区分している。教科指導計画、学級指導計画の区分の中で、1 年から 6 年と、それぞれの学年に分けて記載している。

横軸を見ると、1 学期、2 学期、3 学期と、各学期に分けており、予定時数と実施時数を記載している。各学期には、教科名、単元名、指導内容等を記載するとしている。例えば、2 年の生活科では、1 学期にどきどきわくわくまちたんけん、2 学期にみんなで行こうよつかおうよ、3 学期にもっとなかよしまちたんけんの単元名が記載されている。また、全体指導等には、避難訓練、災害時の引き渡し訓練、地域の防災訓練への参加などの指導内容が書かれている。

(4) 仙台市の防災教育年間指導計画モデルは、小学校低学年、小学校中学年、小学校高学年で作成されている。縦軸を見ると、4 月から 3 月の各月ごとに分かれている。横軸は、知識、技能、態度の区分に分けて、その中で、知識は防災や災害に関する周辺の・基礎的な内容、技能は防災や災害に関する直接的な内容、態度は防災や災害に関する間接的な内容に分かれている。教科・領域として、低学年では、教科、生活科、特別活動、道徳科に区分されている。中学年と高学年では、生活科が総合的な学習の時間に変更されている。

(5) 文部科学省の防災教育年間計画例は、1・2 年、3・4 年、5・6 年で作成されている。また、1・2 年、3・4 年、5・6 年それぞれについて、目標と主な指導内容が記載されている。横軸を見ると、1 学期、2 学期、3 学期に分かれており、それぞれの学期に入る教科や特別活動等を記載している。

次に、作成された防災教育年間指導計画例について、低学年、中学年、高学年での、学期ごとの指導内容について見ていく。

表 1：低学年の防災教育年間指導計画例の指導内容

学期	教科	長野県	福島県	秋田県	仙台市	文部科学省
1	生活	【1年】 ○安全な登下校 ○学校探検 ・学校内のいろいろな場所にいるときに地震が発生したらどうするのかを教える。 【2年】 ○もっと町を知りたいね ○みんなで使う場所 ○みんなのための工夫 ・避難場所や記念碑、避難標識などを探してみる。 ・過去の水害がどこまで来たのかを確認したり、絵地図づくりをしたりする。	【1年】 ○学校探検 ・地震が発生したときに学校内のいろいろな場所で、どうしたらよいのか考える。 ○安全な登下校 通学路の危険な場所を知り、安全な登下校のために気を付けることを理解する。 ○季節となかよし ・学校の近くの危険な場所を知り、安全に活動するために気を付けることを理解する。 【2年】 ○地域探検 ・自分たちの身を守る物等を探したり、マップ作成を行ったりする。 ・地域で安全を守っている人について調べる。 ・地域に伝わる災害に関する言い伝えを聞く。	【2年】 ○どきどきわくわくまちたんけん	【1年】 ○学校をたんけんしよう 【2年】 ○まちたんけん	【2年】 ○「もっとまちをしりたいね」自分と人や社会のかかわり
	学級	【1年】 ○日常生活や学習への適応及び健康安全	○日常生活や学習での適応及び健康安全 ○災害時の正しい行	【1年】 ○火事になったら (1) 【2年】	○登下校の安全 ○避難経路の確認 ○非常時下校体制の	○「火事になったら」

		【2年】 ○日常の生活や学習への適応及び健康安全	動の仕方	○火事になったら(2)	確認 ○あの日 3.11 ○じしんがおこったらどうするの ○夏休みの生活	
2	生活	【1年】 ○地域探検 ・学校の近くを探検する。 ○地域での安全な生活 ・学校の近くの危険な場所を知り、安全に生活するために気を付けることがわかる。 【2年】 ○公共物や公共施設の安全な利用 ○地域の安全を守っている人について調べよう	1学期と同じ	【1年】 ○みんないっしょに 【2年】 ○みんなで行こうよつかおうよ	○ふっこうをめざして	【1年】 ○「じぶんでできることをしよう」自分と人や社会とのかわり 【2年】 ○「いってみようつかってみよう」自分と人や社会のかかわり
	学級	【1年】 ○災害時の正しい行動の仕方 【2年】 ○災害時の安全集団行動	1学期と同じ	【1年】 ○地しんがおこったらどうするの(1) 【2年】 ○地しんがおこったらどうするの(2)	○ぼうさいリュックを用いよう ○ぼうさいくんれんにさんかしよう ○つなみについてしろう ○ひなんの仕方を考えよう ○冬休みの生活	○「地しんがおこったらどうするの」
3	生活	【1年】 ○保育園の年長児との交流	1学期と同じ	【2年】 ○もっとなかよしまちたんけん		【2年】 ○「もっとなかよしまちたんけん」自分と人

		<p>・学校での安全な過ごし方、道路の安全な歩き方について来年入学する園児に教えてあげる。</p> <p>【2年】</p> <p>○災害にまつわる言い伝えを知る</p> <p>・おじいちゃん、おばあちゃんから、地域に伝わる災害に関する言い伝えを聞く。</p>				や社会とのかかわり
	学級	<p>【1年】</p> <p>○休み時間の避難の仕方</p> <p>【2年】</p> <p>○休み時間の避難の仕方</p>	○休み時間の避難の仕方		<p>○きぼうの光</p> <p>○ふるさとを元気に</p> <p>○ぼうさい知しきをチェックしよう</p>	

表2：中学年の防災教育年間指導計画例の指導内容

学期	教科	長野県	福島県	秋田県	仙台市	文部科学省
1	総合	<p>【3年】</p> <p>大すきな△△町→よく遊ぶ場所を友達に紹介しよう→安全に遊ぶ場所はどこかな→見守ってくれている人を調べよう→安全マップを作ろう→作ったマップを全校のみんなに紹介しよう</p> <p>【4年】</p>	<p>大すきなわが町→よく遊ぶ場所を友達等に紹介しよう→安全に楽しく遊べる場所を探そう→私たちを見守ってくれている人たちを調べよう→防災マップを作ろう→作ったマップを学校の友達等に紹介しよう</p>	<p>【3年】</p> <p>○オリジナル防災マップをつくろう</p>	○防災マップづくり	

		私たちの町の湧水→ 湧水を利用した酒作 りについて調べよう →扇状地のつくりに ついて調べよう→豊 かな湧水の素晴らし さについて、みんなに 発信しよう→川の過 去の氾濫について調 べよう→洪水の危険 について調べよう→ 洪水時の避難の仕方 について調べよう				
学級	【3年】 ○日常の生活や学習 への適応及び健康安 全 【4年】 ○日常の生活や学習 への適応及び健康安 全	○日常生活や学習へ の適応及び健康安全 ○屋外への避難の仕 方	【3年】 ○どうする？大雨だ、 強風だ、かみなりだ (1) 【4年】 ○どうする？大雨だ、 強風だ、かみなりだ (2)	○避難経路の確認、登 下校の安全 ○避難の仕方を考え よう ○避難訓練事後指導 ○災害が起きたら ○歌い継ごう～「復興 ソング」 ○夏休みの過ごし方	○どうする？大雨だ、 強風だ、かみなりだ	
社会	【3年】 ○自分たちが住んで いる△△町を知る ・地図づくりをする。 ○地域社会における 災害及び事故防止 【4年】 ○地域社会における 災害 ・自分達の町で過去に 起きた災害について	○地域社会における 災害及び事故の防止 ・関係機関の災害への 対応や事故防止への 努力について学習す る。 ○地域の人々の生活 ・昔から今へと続く町 づくりについて学習 する。 ・地域の発展に尽くし	【4年】 ○安全なくらしとま ちづくり	【3年】 ○学校のまわり ○市の様子	【4年】 ○「安全なくらしとま ちづくり」地域の人々 の安全を守るための 諸活動	

		調査する。	た先人の働きや苦心について学習する。 ○県の様子 ・特色ある地域の人々の生活について学習する。			
	理科	【3年】 ○学校のまわりの動物調べ ・学校のまわりの自然の豊かさを知る。 【4年】 ○とじこめた水 ・水鉄砲の自作。	【3年】 ○身近な自然の観察 ・身近な自然とその周辺の環境との関係についての考えをもつ。 【4年】 ○季節と生物 ・身近な動物との活動や植物の成長と環境とのかかわりについての考えをもつ。			
2	総合	1学期と同じ	1学期と同じ		○命を守る非常食	
	学級	【3年】 ○安全な集団行動 【4年】 ○屋外への避難の仕方	○安全な集団行動	【3年】 ○休み時間などに大地震がおきたら（1） 【4年】 ○休み時間などに大地震がおきたら（2）	○自分で決める ○「台風・大雨の災害から命を守る」 ○家族ぼうさい会ぎをひらこう ○避難訓練事後指導 ○冬休みの過ごし方	○「休み時間に大地震がおきたら」
	社会	【3年】 ○市の様子を調べる ・大きな川の位置や予想される災害について知る。 ○人々の生活や産業 ○避難場所や避難経路	○1学期と同じ			

		【4年】 ○水はどこから ・自分達が飲んでいる水がどこから来るかを知る。 ・上水道の大切さを知ると共に震災時の水の確保の重要性について知る。 ・地域の農業用水の歴史を知る。				
	理科	【3年】 ○光の性質 ・ソーラークッカーの自作。 【4年】 ○金属の温まり方 ・マッチやライターの使用法を知る。	1学期と同じ			
3	総合	1学期と同じ	1学期と同じ		○たくさんのおうえん	○「オリジナル防災マップを作ろう」
	学級	【3年】 ○休み時間の避難の仕方 【4年】 ○休み時間の避難の仕方	○休み時間の避難の仕方		○ぼうさい知しきをチェックしよう ○つたえようわたしたちのことばで ○仙台のさいがい年びょう・ふっこう年びょう	
	社会	【3年】 ○この町の昔 ・災害の歴史や石碑などを確認する。 ○昔から今へと続く	1学期と同じ	【4年】 ○昔から今へと続くまちづくり	【3年】 ○古い道具とむかしのくらし	○地域の古い道具、文化財や年中行事、地域の発展に尽くした先人の具体的事例

		町作り ・絵や写真などで、この町の発展の様子を知る。 【4年】 ○県のように調べる ○県の環境と人々の生活や産業との関連 ・自分の町の地形やその特徴として、地震や土砂災害が多いことを教える。				
	理科	【3年】 ○かん電池と豆電球 ・懐中電灯を自作する。 【4年】 ○光電池の利用 ・災害時には光電池が有効であることや自然エネルギーの価値について知る。	1学期と同じ			

表3：高学年の防災教育年間指導計画例の指導内容

学期	教科	長野県	福島県	秋田県	仙台市	文部科学省
1	総合	【5年】 環境問題について考えよう→市の自慢（自然の美しさ、おいしい農作物）→市の素晴らしさを発信するため番組を作ろう→自	ボランティア活動（私たちにできること）→ H23.3.311 東日本大震災について調べよう→原子力災害について調べよう→節電などエコについて自分	【5年】 ○わたしたちの地域の自然災害	○東日本大震災から学ぶ	○「わたしたちの地域の自然災害」

		<p>然を守る取組について調べよう→災害の危険性についても調べよう</p> <p>【6年】</p> <p>ボランティア活動（私たちにできること）→東日本大震災について調べよう→地震・断層について調べよう→原子力災害について調べよう→節電など自分たちにできることを考えよう→ボランティア活動について調べよう→自分の学校の避難所になったとき自分たちにできることを考えよう</p>	<p>たちのできることを考えよう→東日本大震災のボランティアに参加した人たちの体験談から学ぼう→自分たちの学校が避難所になったとき自分たちにできることを考えよう</p>			
学級	<p>【5年】</p> <p>○日常の生活や学習への適応及び健康安全</p> <p>【6年】</p> <p>○日常の生活や学習への適応及び健康安全</p>	<p>○日常生活や学習への適応及び健康安全</p> <p>○火災防止</p>		<p>○避難経路の確認、登下校の安全</p> <p>○高学年として</p> <p>○非常時下校体制の確認</p> <p>○大災害に備えよう</p> <p>○地域の一員として</p> <p>○地震に備えて</p> <p>○家族防災会議を開こう</p> <p>○落ち着いた行動を</p> <p>○夏休みを有意義に</p> <p>○地域のリーダーと</p>		

					して	
	社会	<p>【5年】</p> <p>○国土の様子と自然災害</p> <p>○農業の様子</p> <p>・長野県の農産物の豊かさについて知る。</p> <p>・食の安全の大切さと放射性物質の危険性について知る。</p>	<p>【5年】</p> <p>○我が町の国土の自然などの様子</p> <p>・地形や気候の概要、特色ある地域の人々の生活について学習する。</p> <p>・自然災害の防止について学習する。</p> <p>○我が町の情報産業や情報化した社会の様子</p> <p>・地震や土砂災害を即時に知らせる取組を取り上げて学習する。</p> <p>【6年】</p> <p>○我が国の政治の働き</p> <p>・地方公共団体や国による災害復旧の取組の事例を取り上げて学習する。</p> <p>○世界の中の日本の役割</p> <p>・国際協力の事例として災害時の救援活動を取り上げて学習する。</p>			
	理科	<p>【5年】</p> <p>○天気の変化①</p> <p>・アメダスや雨量計について知る。</p>	<p>【5年】</p> <p>○天気の変化</p> <p>・天気の変化の仕方についての自分の考え</p>		<p>【6年】</p> <p>○物の燃え方と空気</p>	

		<p>・テレビやインターネットで天気情報を得ることができることを知る。</p> <p>・地域に伝わる天気予報の言い習わしを知る。</p> <p>【6年】</p> <p>○ものの燃え方と空気</p> <p>・災害時に使う際、どうしたらよく燃えるか考える。また、火災時に火が広がらないようにするためにはどうしたらいいか考える。</p>	<p>をもつ。</p> <p>【6年】</p> <p>○燃焼の仕組み</p> <p>・ものが燃えるときには、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができることを理解する。</p>			
2	総合	1学期と同じ	1学期と同じ	<p>【6年】</p> <p>○わたしたちのくらしと火山</p>	<p>○語り継ごう！東日本大震災</p> <p>※震災遺構活用</p>	<p>○「わたしたちのくらしと火山」土地のつくりと変化</p>
	学級	<p>【5年】</p> <p>○火災防止</p> <p>【6年】</p> <p>○地域の避難訓練</p>	○地域の避難場所	<p>【5年】</p> <p>○町の中でぐらっときたら（1）</p> <p>【6年】</p> <p>○町の中でぐらっときたら（2）</p>	<p>○家族とのつながり</p> <p>○冬休みの過ごし方</p>	<p>○「町の中でぐらっときたら」</p>
	社会	<p>【5年】</p> <p>○くらしを支える情報</p> <p>・防災行政無線の役割、警報や注意報について知る。</p>	1学期と同じ	<p>【5年】</p> <p>○くらしを支える情報</p>	<p>【5年】</p> <p>○情報化した社会とわたしたちの生活</p> <p>【6年】</p> <p>○震災復興の願いを実現する政治</p>	

		<p>・地域のケーブルテレビを見学するとともに、その役割について知る。</p> <p>【6年】</p> <p>○我が国の政治の働き（人々の願いとまちづくり）</p> <p>・災害時の政治のはたらきとして、被災者支援等を紹介し、過去の震災の被害や復興までの道のりについて調べる。</p>				
	理科	<p>【5年】</p> <p>○天気の変化②</p> <p>【6年】</p> <p>○土地のつくりと変化</p> <p>・地震や津波のしくみと被害の様子を知る。</p> <p>・火山活動や、その危険性について知る。</p>	<p>【5年】</p> <p>○天気の変化（台風）</p> <p>・台風の進路による天気の変化や台風と降雨との関係についての考えをもつ。</p> <p>○洪水のはたらき</p> <p>・川の増水により土地の様子が大きく変化する場面があることを理解する。</p> <p>【6年】</p> <p>○土地のつくりと変化</p>	<p>【5年】</p> <p>○天気の変化</p> <p>○流水のはたらき</p>	<p>【5年】</p> <p>○台風と天気の変化</p> <p>○流れる水のはたらき</p> <p>【6年】</p> <p>○大地のつくりと変化</p>	<p>【5年】</p> <p>○天気の変化</p> <p>○「洪水の危険について知ろう」流水のはたらき</p>
3	総合	1学期と同じ	1学期と同じ		○東日本大震災から学ぶ	
	学級	<p>【5年】</p> <p>○休み時間の避難の仕方</p>	○休み時間の避難の仕方	<p>【5年】</p> <p>○いざという時の備えは（1）</p>	○異学年と交流しよう	○いざという時の備えは

		【6年】 ○休み時間の避難の仕方		【6年】 ○いざという時の備えは（2）		
	社会	【5年】 ○自然環境と地域の人々の生活や産業との関連 ・長野県の観光は自然の恩恵を受けていることを知る一方で自然災害の危険性も持っていることを知る。 【6年】 ○これからの日本を考えよう ・震災からの復興、原子力発電所の安全性などの課題について考える。	1学期と同じ	【5年】 ○環境を守る人々 【6年】 ○暮らしの中の政治	○わたしたちの生活と環境	【5年】 ○情報産業と国民生活の関連 ○人々の安全を守るための諸活動 【6年】 ○我が国の政治の働き
	理科	【5年】 ○洪水の動き水のはたらき ・洪水や土砂災害から町を守るための施設として、護岸工事等が行われていることを紹介する。 【6年】 ○電気の利用 ・小型発電機を自作し、発電の仕組みについて知る。 ・風力発電について知	【6年】 ○電気の利用 ・身の回りには電気の性質を利用した道具があることを理解する。			

		るとともに自然エネルギーの大切さを考える。				
--	--	-----------------------	--	--	--	--

V. 各教育委員会等作成の防災教育年間指導計画例の特徴

各教育委員会等で作成された防災教育年間指導計画例の特徴として、①防災教育年間指導計画例の全体的な特徴、②防災教育年間指導計画例の指導内容の2点についてまとめていく。

①各教育委員会等で作成された防災教育年間指導計画例を収集して分析したところ、長野県、福島県、秋田県、仙台市、文部科学省で作成されていることが分かった。今現在、数多くの防災教育年間指導計画例が作成されているわけではないといえる。また、長野県のように、学年ごとに作成されている計画例もあれば、福島県、仙台市、文部科学省のように低学年、中学年、高学年ごとに作成されている計画例もある。秋田県は、全学年が一つにまとめられた計画例となっている。

防災教育年間指導計画例について、長野県や秋田県の縦軸を見てみると、各教科と学級活動とを区別していることが分かった。長野県は、安全学習の区分の中に各教科等、安全指導の区分の中に学級活動、児童会活動、主な学校行事を区分している。秋田県は、教科指導計画、学級指導計画、全体指導計画に区分している。横軸を見てみると、長野県、福島県、秋田県、文部科学省とも、1学期、2学期、3学期に区分し、それぞれの学期の中に各教科等の指導内容を記載している。仙台市の横軸は、知識、技能、態度の区分に分かれており、縦軸は、4月から3月までの各月ごとに分けている。長野県と福島県は、縦軸は教科等、横軸は1学期から3学期に区分しており、同じような防災教育年間指導計画例になっている。横軸を1学期から3学期に区分しているところは、秋田県や文部科学省も同じである。仙台市は、縦軸は月ごとに区分し、横軸は防災対応力の構成要素となっており、特徴的な防災教育年間指導計画例だといえる。

安全学習を各教科等に、安全指導を特別活動に区分するところもあれば、教科指導計画、学級指導計画、全体指導計画に区分するところもあるなど、特別活動をどのような区分で分けるのかに違いがあるといえる。また、福島県では、教科等の特性により、特に順序性を問わない場合は、学期の区分を入れずに示すとしていること、仙台市のように、各教科等で、どのような内容が、どのようなねらいを持って行われるのかを視覚的に分かるようにすることは、それぞれの教育委員会の特徴であるといえる。仙台市の防災教育年間指導計画例では、防災教育のねらいを持ちながら実践していくことを想定したものになっている。

②各教育委員会等で作成された防災教育年間指導計画例を分析したところ、生活科では、同じ指導内容が示されていることが多いことが分かった。1年生では、学校探検と安全な登下校が、

2年生では、町探検が主な防災に関する内容になっている。学校探検では、地震が発生したときに、学校内のいろいろな場所で、どのような危険があるのかを調べる。安全な登下校では、通学路の危険な場所を調べることを主な内容としている。学級活動では、災害種別ごとに、火事や地震、大雨が起こったときの正しい行動の仕方について学習することが、主な防災に関する内容となっている。また、授業中、休み時間、町の中など、場面を変えた対応についても学習をしている。総合的な学習の時間では、3年生は、防災マップを作成することが、長野県、福島県、秋田県、仙台市の計画例で示されている。高学年では、地域の自然災害について学ぶ活動、ボランティア活動、エコ活動、避難所について学ぶ活動など、色々な内容が示されている。エコ活動について自分たちができることを考える、避難所で自分たちにできることを考えるなど、高学年では、自分たちができることを考え、行動していくことまでを目指した学習が展開されている。社会科では、中学年では、自分たちが住んでいる町の様子について調べること、地域社会における災害及び事故の防止の内容について学ぶこと。高学年では、国土の様子と自然災害や情報とを関連させて学ぶ内容が、防災に関する主な内容になっている。理科では、中学年では、防災に関する同じような内容はあまり見られないが、高学年では、天気の変化について、台風や洪水と関連させて防災を学ぶとしているところが多い。

各教育委員会等で作成された防災教育年間指導計画例を比較したところ、教科ごとに同じ内容が示されていることが多いことが分かった。また、各教科等の指導内容をまとめたところ、各教科等を関連させて学習を進めていくこともできそうである。例えば、低学年では、生活科で、学校や登下校中の危険場所を調べる内容と関連させて、学級活動で、それぞれの危険場所での震災対応について学習する。中学年では、総合的な学習の時間で、防災マップを作成する活動と関連させて、社会科で自分たちが住んでいる町の様子について調査したり、地域社会における災害について学習したりする。高学年では、総合的な学習の時間で、わたしたちの地域の自然災害について学習することと関連させて、社会科で、わが町の国土と自然などの様子について学習すること。理科で、地域の川について、洪水の危険について学習するなど、生活科と総合的な学習の時間を柱の教科として、他教科を関連させて、教科横断的に防災教育を実践していくことも考えられる。

VI. おわりに

本研究では、各教育委員会等で作成された、防災教育年間指導計画例を収集して分析することで、今現在の小学校で、どのような防災教育年間指導計画例が作成されているのかを明らかにし、その特徴を把握した。収集したものは、長野県、福島県、秋田県、仙台市、文部科学省の5つで、防災教育年間指導計画例については、それほど多くのものが作成されているわけではないことが分かった。

各教育委員会等で作成された、防災教育年間指導計画例の内容について分析したところ、学年ごとに作成しているところもあれば、低学年、中学年、高学年ごとに作成しているところもある。縦軸については、教科等に区分しているものが多いことが分かった。また、長野県と秋田県のように、教科等と学級活動を分けているところも見られた。横軸については、1 学期から 3 学期の区分に分けているところが多く見られた。

防災教育年間指導計画例について、防災教育と関連の深い教育活動である、生活科、総合的な学習の時間、社会科、理科、学級活動において、低学年、中学年、高学年で、1 学期から 3 学期の区分に分けて、指導内容を整理した。教科ごとの指導内容を比較したところ、同じ内容が示されていることが多いことが分かった。各教科等で防災教育に関連した内容を行うとすると、単元、指導内容とも、それほど大きな違いがないといえる。例えば、低学年の生活科では、学校探検、地域探検、中学年の総合的な学習の時間では、防災マップ作り、中学年の社会科では、地域調査、地域社会における災害及び事故防止、高学年の理科では、台風や洪水についてなど、各教育委員会等で同じ内容が示されている。

また、これらの教科等は、防災教育と関連が期待される教育活動であるといえる。文部科学省は防災教育について、学校の教育活動全体を通して適切に行うよう、各教科等を有機的に関連させるとしている。教科ごとに個別に行うのではなく、各教科等の指導内容を関連させて、有機的に行うことで、防災教育の教育的効果を高めていけるといえる。

今回の研究より明らかになった知見をもとに、どのような防災教育年間指導計画例が望ましいのか、今後も研究を継続していきたい。

引用・参考文献

- 1) 文部科学省（2013）『学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開』 p.3
- 2) 同上 1) P.3
- 3) 同上 1) P.6
- 4) 同上 1) P.6
- 5) 同上 1) P.6
- 6) 同上 1) P.13
- 7) 長野県教育委員会（2013）『「学校における防災教育の手引き」平成 24 年度実践的防災教育総合支援事業報告書～』
- 8) 福島県教育委員会（2017）『ふくしま放射線教育・防災教育指導資料活用版』
- 9) 秋田県教育委員会（2013）『学校における防災教育の手引き』
- 10) 仙台市教育委員会（2012）『学校における防災教育指導資料』
- 11) 同上 1) pp.80-81